

## (シラバス No.13) (専門科目 特別講究 I)

科目名	特別講究 I (教育相談論) 英語名: Special Seminar on School Counseling	必修/選択	選択必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	土岐 玲奈	
<b>【授業概要】</b>				
<p>博士(教育)の学位を持つことになる教育研究者・実践者として、自身の現場での実践を深め、自ら研究を遂行するための学修を行う。本科目では特に、教育相談の実践的な理論・方法を中心に扱う。具体的には、学修初期に具体的なテーマを扱い、教育相談の実際を学んだうえで、理論・方法論を学び、調査・分析の手法とそれを支える理論に対する理解を深めたうえで、実際に調査を実施し、具体的な支援方法の立案につなげる。さらに、得られた結果を現場にフィードバックし、それに対する反応を得る中で、応用可能な理論を導き、理論と実践の往還による研究・実践の深化を図る。また、研究成果を積極的に公表し、実践現場に資することを目指す。</p> <p>以上の目標を踏まえ、授業の中では、先行研究を参照し、調査・分析の手法とそれを支える理論に対する理解を深めたうえで、実際の調査及び分析を進め、博士論文の一部を成す研究成果の完成を目指す。</p>				
<b>【キーワード】</b>				
学校教育相談、スクールカウンセリング、理論と実践の往還、事例研究、受容と傾聴				
<b>【授業の到達目標】</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現場から立ち上がった課題を対象とし、その状況や文化に寄り添い調査研究を行う臨床的研究の特徴について理解し、活用できるようになる。</li> <li>2. 研究によって得られた学術的な知見を、実践と関連付けて理解し、自ら現場で生かせるようになる。</li> <li>3. 研究によって得られた学術的な知見を多くの実践家に届けられるよう、具体的かつ分かりやすく発信できるようになる。</li> <li>4. 現場との関わりの中で、研究者自身が変わっていく事の意味と意義を理解する。</li> </ol>				
<b>【教育の方法】</b>				
スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】				
<b>【授業計画】</b>				
回	内 容			
1	オリエンテーション 本授業の狙いと概要			
2	学校臨床学とはなにか			
3	学校臨床的研究とはなにか			
4	学校臨床的研究の理論			
5	学校臨床的研究の対象と方法			
6	学校臨床学に関する文献の検討			
7	教育相談の基本			
8	教育相談に関する研究の対象と方法			
9	教育相談に関する文献の検討			
10	受講者の問題関心に応じた先行研究の検討			
11	研究テーマの設定			
12	テーマと対象に応じた研究方法の検討			
13	研究・執筆計画の検討			
14	「問題背景」執筆のための文献検討			
15	まとめ			
試験				

**【履修にあたっての準備・履修上の注意点】**

事前に自身の問題関心と、実施したい研究の内容（可能であれば方法も）について、説明できるようにしておく。

**【スクーリングでの学修内容】**

学修初期のスクーリングの目的は、第一に、授業の目的や学修の概要を知り、この科目を通じて何を指すかを学生と教員が相互に確認すること、第二に、研究によって改善を目指す課題を明確化することである。さらに、学修の終期に、学修のまとめとしてもスクーリングを行う。

学修初期のスクーリングに関しては、スクーリング前に、教育相談の実践と研究に関する文献の予習を行う。スクーリング後には、スクーリングでの学修の成果を踏まえて、教育相談研究に関するレポートの作成準備を進める。

学修終期のスクーリングに関しては、事前に各自で個別論文の研究計画を立てておく。スクーリングでは教育相談研究の成果をまとめた研究書や学術論文についての理解を深めると同時に、それらの知見を踏まえて実践にどのように反映できるかについて発表と検討を行う。スクーリング後には、学修全体の成果を踏まえて、科目修得試験のレポート作成にあたることが求められる。このレポートでは、各自が設定した課題がどのように、どの程度改善されたかを示すことが求められる。ただし、対人援助にかかわる実践上の課題解決には長い時間を要するものも少ないことから、過度に短期的な成果を追求するのではなく、当該時点で得られた成果と併せて、今後の見通しや課題を明確に示すことが求められる。

スクーリングはこの2つの時期を含み、合計4コマ6時間以上をめぐり行う。

**【評価方法】**

合否については、学修成果の実践への生かし方についての発表（25%）、レポート1本（25%）、科目修得試験（50%）で評価する。

**【テキスト】**

近藤邦夫『学校臨床心理学への歩み』福村出版、2010年  
河合隼雄『臨床教育学入門』岩波書店、1995年

**【参考図書】**

春日井敏之・伊藤美奈子『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房、2011年  
中村雄二郎『臨床の知とは何か』岩波書店、1992年  
佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社、2006年  
志水宏吉『学力を育てる』岩波出版、2005  
保坂亨『学校を欠席する子どもたち』東京大学出版会、2000年

**【教員メッセージ】**

- ・受講者の問題関心をベースに、実践を研究として捉えなおす方法と、実践を異なる視点からとらえなおすことの意義について考え、同時に研究を進めることで、「理論と実践の往還」の実践を進めます。
- ・スクーリングでは、受講者の皆さんが自身の考えや経験、研究上の悩み等を言語化し、共有することを重視します。

**【備考】**

特記事項なし